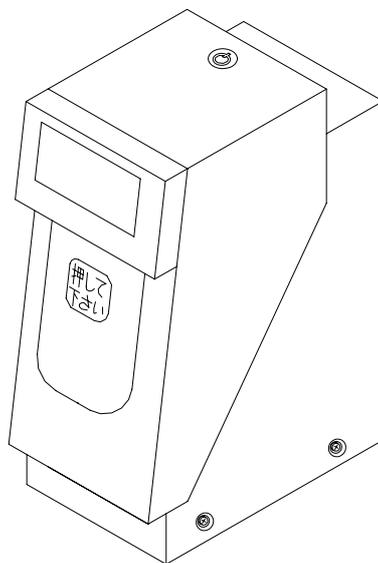


カッタ付サーマルプリンタ

T - 1000FJ / FZ

操作説明書



この度は、高速発券機をお買い上げいただき、誠に有難うございました。
正しくご使用いただくために、この操作説明書をよくお読みのうえ、未永くご愛用くださるよう
お願い申し上げます。お読みになった後は、大切に保管して下さい。

ナダ電子株式会社

REV2.3
技2S-050926

安全上のご注意

※ ご使用になる前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使い下さい。
又、お読みになったあとは 本製品の近くなど いつでも見られる場所に必ず保管して下さい。

この「安全上のご注意」では、製品を正しくお使い頂き、あなたや他人の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな注意事項を絵表示で示します。

注意事項は、誤った取扱いをすると生じることが想定される内容を危害や損害の程度によって「警告」、「注意」の2つに区分しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ずお守り下さい。

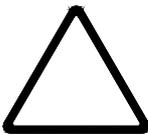
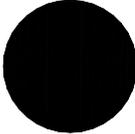
その表示と意味は次の様になっています。

内容をよくご理解の上、本文をお読み下さい。

☆ 危害・損害の程度とその表示

 警告	この表示を無視して 誤った取扱いをしますと、人が死亡 又は 重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して 誤った取扱いをしますと、人が傷害を負う可能性が想定される内容 及び 物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

	<p>この記号は一般的な注意、警告、危険の通告に使用します。 図の中に具体的な注意内容が描かれています。</p> <p>(例)</p> <p> : 一般的な注意事項</p> <p> : 感電注意</p>
	<p>この記号は一般的なしてはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。 図の中に具体的な禁止内容が描かれているものもあります。</p> <p>(例)</p> <p> : 分解禁止</p> <p> : 接触禁止</p>
	<p>この記号は必ず従っていただく内容であることを告げるものです。 図の中に具体的な指示内容が描かれています。</p> <p>(例)</p> <p> : 一般的な行為の指示</p> <p> : 電源プラグ抜け</p>



警告



電源プラグは、ほこりが付着していないか確認し、がたつきのない様に刃の根元まで確実に差し込んで下さい。

ほこりが付着したり 接続が不完全な場合は、火災・感電の恐れがあります。
(プラグは根元まで確実に差し込んで下さい。)



電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないで下さい。又、重い物をのせたり、引っ張ったり、無理に曲げたりしないで下さい。

電源コードが傷んだ時は、販売店に交換をご依頼下さい。そのまま使用しますと火災・感電の恐れがあります。



表示された電源電圧以外の電圧で使用しないで下さい。又、タコ足配線はしないで下さい。

火災・感電の恐れがあります。
(交流100V 50/60Hzの商用電源コンセントに接続して下さい。)



必ず電源を接続する前にアース接続して下さい。

アース接続しないで使用すると、万一漏電した場合に火災・感電の原因となる恐れがあります。

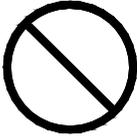


取り外したカバー、キャップ、ネジ等は小さなお子様が誤って飲むことがないように、又、本装置を包装しているビニール袋は誤って被ることがないように、小さなお子様の手の届かないところに置いて下さい。

万一の場合は、ただちに医師と相談して下さい。



警告



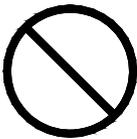
濡れた手で電源プラグの抜き差しをしないで下さい。
感電の恐れがあります。



電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込み口がゆるい時は使用しないで下さい。
そのまま使用すると火災・感電の恐れがあります。



本機を分解・改造しないで下さい。
ほこりが付着したり、接続が不完全な場合は、火災・感電の恐れがあります。



本機のキャビネットを外さないで下さい。
内部の点検、修理は販売店にご依頼下さい。
内部には電圧の高い部分や鋭利な部分があり、感電やけがの恐れがあります。



湿気やほこりの多い場所、通気性の悪い場所、火気のある場所に置かないで下さい。
火災・感電の原因となる恐れがあります。



本機の上や近くに薬品や水などの入った容器 又は 金属物を置かないで下さい。
万一、こぼれたり 中に入った場合は、火災・感電の原因となる恐れがあります。
異物（水、液体、金属片など）が中に入った時は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡下さい。
そのまま使用すると、火災・感電の恐れがあります。



警告



本機の開口部等から内部に金属類や燃えやすい物等の異物を差し込んだり、落としたりしないで下さい。

火災・感電の原因となる恐れがあります。



本装置に水をかけたり、濡らしたりしないで下さい。

火災・感電の原因となる恐れがあります。



ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所、振動や衝撃の多い場所には置かないで下さい。

落ちたり 倒れたりして、けがの原因になることがあります。万一、本機を落としたり キャビネット等を破損した場合は、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡下さい。そのまま使用すると、火災・感電の恐れがあります。



万一、発熱している、煙が出ている、変な臭いがする等の異常が見つかった場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて下さい。

そのまま使用すると、火災・感電の恐れがあります。すぐに電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡下さい。

お客様自身による修理は危険ですから絶対におやめ下さい。

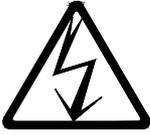


機器を落としたり、カバー等を破損した場合は、本装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて下さい。その後、販売店にご連絡下さい。

そのまま使用すると、火災・感電の恐れがあります。



警告



オプション機器の取り付けや取り外しを行う場合は、本装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてから行って下さい。

感電の恐れがあります。



オプション機器を接続する場合には、取扱説明書に書かれていない機器は接続しないで下さい。

火災・感電の原因となる恐れがあります。



注意



本機を移動する場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行って下さい。

又、接続ケーブルなども外して下さい。

作業は足元に十分注意して行って下さい。

コードが傷つき、火災・感電の原因となったり、機器が落ちたり倒れてけがの原因となることがあります。



電源コードは、必ずプラグを持って抜いて下さい。

電源コードを引っ張りますと コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。



注意



通電したまま 本機をカバー等で被わないで下さい。

内部に熱がこもり、火災の原因になることがあります。



直射日光の当たる場所や暖房機の近くなど、高温になる場所に長時間放置しないで下さい。

高温によってカバーなどが加熱、変形、変色、溶解する原因となったり、機器内部が高温になり、火災の原因となることがあります。



本機の上に重い物を置かないで下さい。

置いた物がバランスをくずして倒れたり落下してけがの原因となることがあります。



調理台や加湿器のそば等 油煙や湯気があたる様な場所に置かないで下さい。

火災・感電の原因となる恐れがあります。



この機器の通風孔をふさがないで下さい。

通風孔をふさぐと 内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

本機を壁ぎわ等に設置する場合は、必ず10cm以上離して下さい。



結露状態のまま使用しないで下さい。

火災・感電の原因となることがあります。

室温の低い所から暖かい場所に移動した場合 又 室内の温度を急に上げた場合は、ご使用前に30分以上放置して結露状態を取り除いて下さい。



注意

	<p>電源コードを熱器具に近づけないで下さい。 コードの被覆が溶けて、火災・感電の恐れがあります。</p>
	<p>カードなどの差し込み口に指などを入れないで下さい。 けがの原因となることがあります。</p>
	<p>記録紙交換等の際に、プリンタのギアに髪の毛やスカーフ等を巻き込まれない様にご注意下さい。 けがの原因となることがあります。</p>
	<p>プリンタへのヘッド部分には触れない様にご注意下さい。 けが・火傷の原因となることがあります。</p>
	<p>連休等で 長期間本機を使用しない時は安全のため、必ず 電源プラグをコンセントから抜いて下さい。</p>
	<p>落雷の恐れがあるときは、安全のため 必ず 電源プラグをコンセントから抜いて下さい。 火災の原因になることがあります。</p>
	<p>重量のある機器を移動する場合は、必ず 2人以上で運んで下さい。 腰や手を痛める恐れがあります。</p>

*** 目 次 ***

使用上の注意	1
付属品の確認	3
各部の名称	4
ロール紙（記録紙）のセット方法	6
各種設定方法について	7
T - 1 0 0 0 F Zの発券エラーについて	13
印字中のペーパーエンドについて	14
表示器について	15
紙づまり時の対応	17
カッタ交換方法	18
メンテナンスの方法	19
消耗品の購入について	19

使用上の注意

設置について

- ・本機は振動が生じない様な場所で、ご使用下さい。
- ・高温・多湿 又、直射日光の長時間当たる場所でのご使用は避けて下さい。
- ・揮発性有機溶剤・アンモニア・油などの液体噴霧環境 又は 砂や鉄分を含むホコリの多い場所でのご使用は避けて下さい。
- ・衝撃や振動の加わる場所や強い電磁界、腐食性ガスの発生する場所でのご使用は避けて下さい。
- ・電源ノイズの大きい機器（例えば空調機器）とは離してご使用下さい。

感熱紙の取り扱いについて

- ・使用、保存状態により発色(色が出る)、変色(色が変化)、退色(色あせる)する場合があります。

1 使用上の注意点

爪、金属物で感熱紙表面を強くこすらない。

発色の原因となります。

糊を使用する場合は水生糊を使用する。

溶剤系・ゴム系の糊、ステック糊は発色の原因となります。

溶剤を含んだ筆記用具(油性サインペン、蛍光ペン)を使用しない。

変色の原因となります。

濡れた手で触らない。

指紋がついたり、印字が不鮮明になる原因となります。

2 保存上の注意点

直射日光、高温多湿の場所を避けて保管のこと。

変色、退色の原因となります。

印字済み感熱紙を青焼きコピー(ジアゾ方式)と密着させない。

退色の原因となります。

印字済み感熱紙をプラスチック製消しゴムに接触させない。

長時間の接触は退色の原因となります。

印字済み感熱紙を軟質塩化ビニール製のファイルで保管しない。

退色の原因となります。

長期保存が必要な場合はコピーして下さい。

感熱紙の特性上長期保存はできません。

メカについて

- ・メカ部の主な板金部（プレス部）はメッキ鋼板を使用している為、端面に多少の錆が発生する場合があります。

印字ヘッドについて

- ・記録紙をプリンタ装置にセットしていない状態で印字しないで下さい。
空印字しますと、印字ヘッドやプラテンが傷みます。
- ・印字中、印字ヘッドに触れたり、無理な力を加えたりしないで下さい。
- ・印字ヘッドは高温になります。温度が十分に下がるまで、手で触れないで下さい。

衝撃について

- ・本機は精密な電子部品でできていますので、落としたり、物を当てたりして衝撃を与えないで下さい。

水や異物について

- ・本機内部に水や液状の物が入ったり、ピン・クリップ等の金属類を落とし込んだりしないで下さい。本機が故障する可能性があります。
- ・水や液状の異物が入った場合は、すぐに電源を切り、電源コードを抜いて下さい。

汚れについて

- ・本機の外装部ケースの汚れは、柔らかい布に水 又は 中性洗剤を少し含ませて軽くふき取って下さい。
- ・シンナーなどの揮発性の物で拭いたりしますと、筐体ケースの変色などの原因となります。

その他の注意

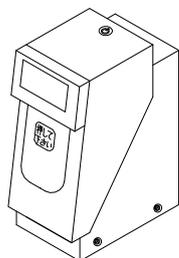
- ・本書の内容の一部 又は 全部を無断転載することはお断りします。
- ・本書の内容に関しては、将来予告なしに変更する場合があります。
- ・本製品がお客様により、本書の内容に従わず不適当に取り扱われたり 又 ナダ電子(株) 及び ナダ電子(株)指定の者以外の第三者により、修理・変更されたなどに起因して生じた損傷等につきましては、責任を負いかねますので御了承下さい。

(C)ナダ電子株式会社 1995

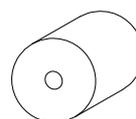
□ 付属品の確認

梱包箱より、本体部を取り出して、付属品を確認して下さい。

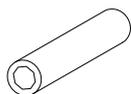
プリンタ本体
(表示器はオプションです)



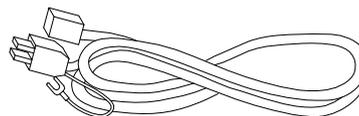
ロール紙 : NP-604



ロールシャフト : S-17



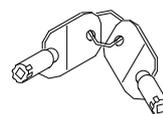
プラグ付電源ケーブル



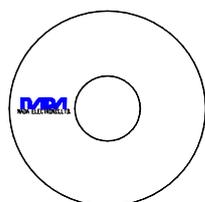
手動発券用スイッチラベル



開閉キー (2個)



取扱説明書/操作説明書 (CD-ROM)

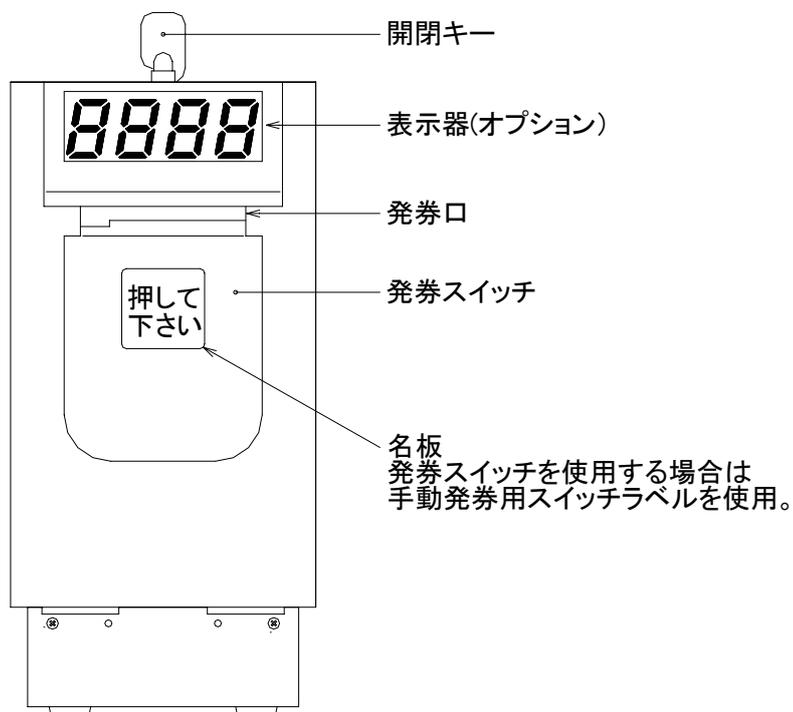


Toolkit (CD-ROM)
(TRP-622のみに付属)

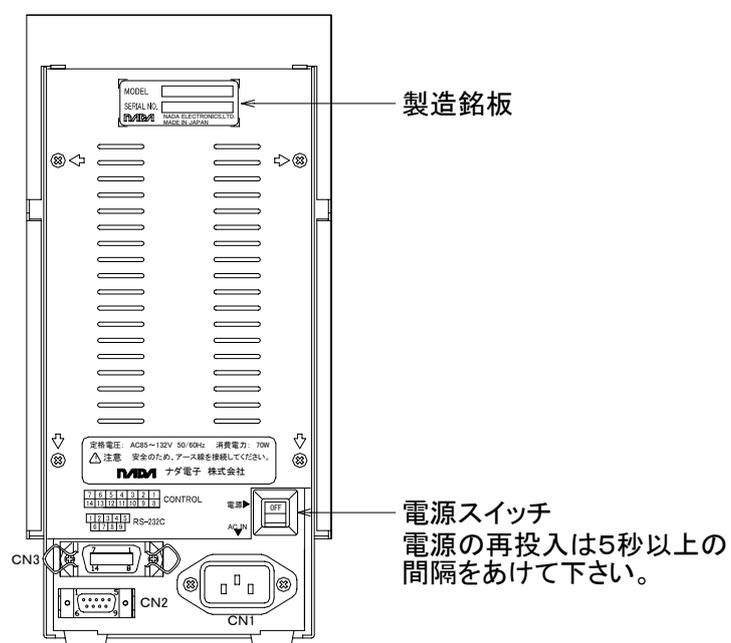


□ 各部の名称

1. 正面



2. 背面



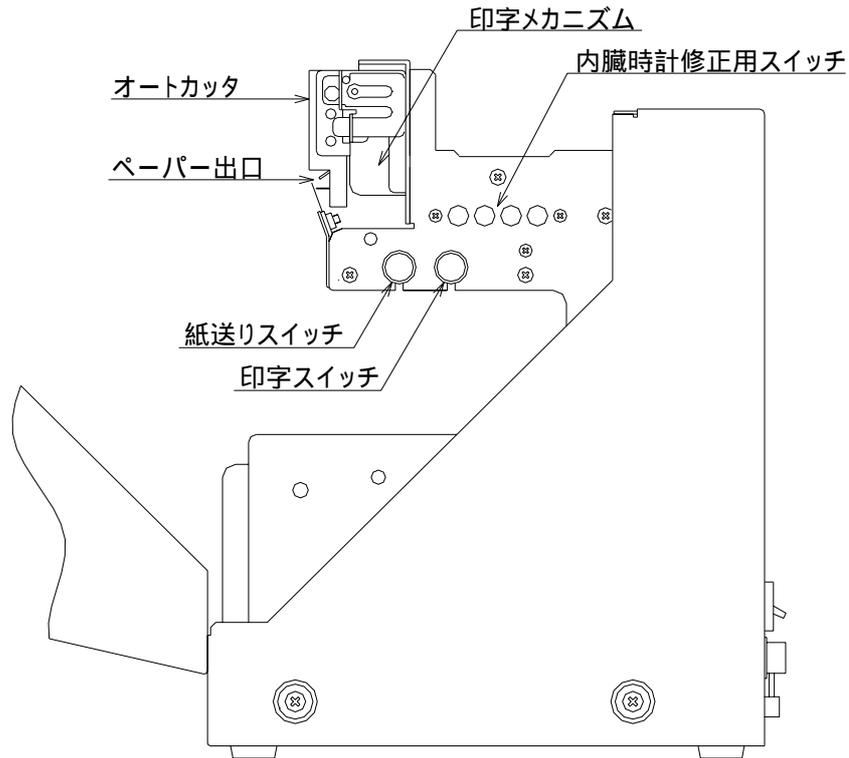
CN1 : 電源供給コネクタ (付属のプラグ付コードを使用して下さい)

CN2 : シリアル入出力コネクタ

CN3 : 制御入出力コネクタ

各コネクタの詳細は取扱説明書を参照願います。

3. 内部



1) 紙送りスイッチ

ロール紙の空送り用スイッチです。押している間、ロール紙は送り出されます。

2) 印字スイッチ

T-1000FJ の場合はチェック印字を行います。

T-1000FZ の場合は再発行のメッセージとともに前回の発券内容と同じ内容で発券を行います。再発行の印字行は常にテキスト印字となります。そのため発券がリスタ印字の場合、逆向きの印字となります。

T - 1 0 0 0 F J

T - 1 0 0 0 F Z



*** 受付番号 ***

本日限り有効

5

2003年05月16日14時19分24秒
秒分失ひに注意
(再発行しません)

【発券見本-1 フルカット】

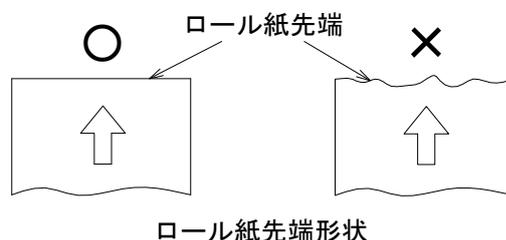
***** 再発行 *****

3) 内蔵時計修正用スイッチ

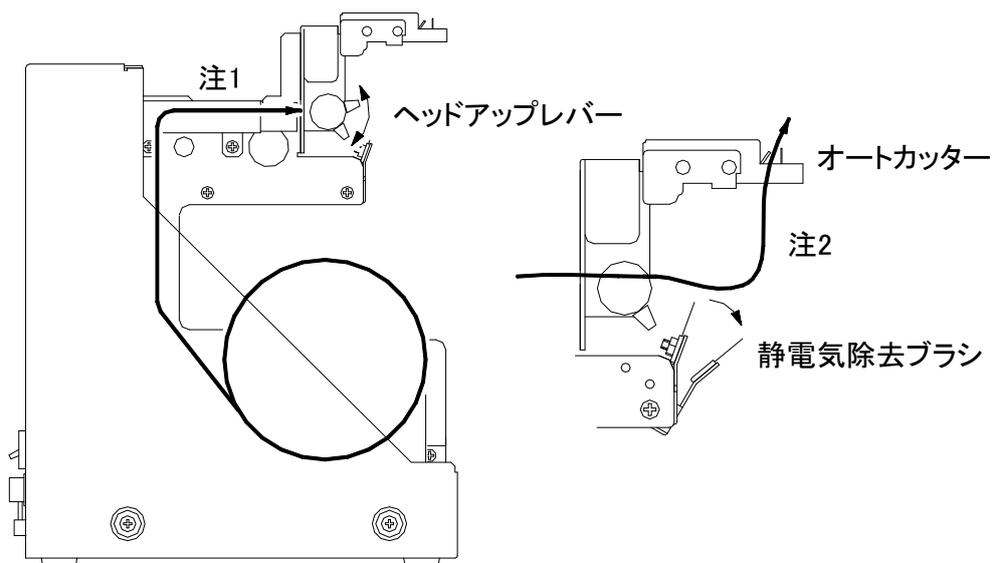
日付、時刻の修正時に使用しますが、T-1000FZ の場合には発券番号の指定や、登録している発券内容の指定を行うことができます。

□ ロール紙（記録紙）のセット方法

1. ロール紙の先端は下図に従って、真っ直ぐにカットしてください。
先端を2つ折にしてメカニズムに挿入すると、紙づまりの原因になる為 禁止します。



2. 印字メカニズムのヘッドアップレバーを上げます。
3. ロール紙をガイドに沿って挿入します。
ロール紙の端止めテープ部分は印字に影響が出る可能性が御座いますので、約一回り分は使用しないでください。
4. 印字メカニズムがロール紙を検知すると、オートローディング機能で自動紙送りを開始します。
5. ヘッドアップレバーを下げます。
6. 紙送りスイッチを操作し、ロール紙がスムーズに送れるか確認しセット完了となります。



- 注1 ロール紙先端が真っ直ぐでない場合で、ロール紙の先端が印字メカニズムに挿入しにくい時は印字メカニズムの後方から手でロール紙を送り込んでください。
- 注2 ロール紙先端がオートカッター部入口で、詰まる時には静電気除去ブラシを手前に倒し、オートカッターを上方へ回転させてください。
紙送りスイッチでロール紙を印字メカニズムより10cm程度送り出し、ロール紙先端をオートカッターのペーパー入口に通し、オートカッター、静電気除去ブラシを元の位置に戻します。
- 注3 ロール紙のセット後に、ロール紙を無理に引っ張る事は禁止します。
必ず紙送りスイッチで紙送りを行ってください。



ロール紙は、純正品（NP-604）を使用してください。
純正品以外を使用されると、本来の性能を発揮できない上に故障の原因となることがあります。

各種設定方法について

1. 基本操作

1) [メニュー]による選択

次の内容を [メニュー] を押すごとに印字します。

T - 1 0 0 0 F J の場合

2003年05月12日18時41分32秒

日付、時刻の修正方法を印字する。

日付を修正する。

時刻を修正する。

T - 1 0 0 0 F Z の場合

2003年05月12日18時41分32秒

日付、時刻の修正方法を印字する。

日付を修正する。

時刻を修正する。

発券番号をリセットする。

発券番号を修正する。

リセット時刻を修正する。

発券枚数を修正する。

最後のカット方法を選択する。

発券内容を選択する。

印字濃度を選択する。

2) [ハイ][イイエ][《][》][+1]による設定

[メニュー]による選択から [ハイ] を押すことでその項目の設定モードになります。

白黒反転された位置の数値を [+ 1] で変更します。反転位置は [《][》] で移動します。年から月、月から日の選択と項目が変わると印字を行います。

設定値は [メニュー] による “よろしいですか。” の応答の [ハイ] で最終決定されます。

3) オプションの表示器付では設定値をLED表示します。

4) スイッチを30秒間操作しなければ設定モードを終了し、発券が可能となります。

5) スイッチの操作は先端の鋭利なもの(シャープペンシルの先端等)では行わないで下さい。故障の原因となります。ボールペン、あるいはシャープペンシルを使用する場合は、後端のノック側で行ってください。

2. 日付、時刻の修正

1) 具体的な操作

2001年3月01日15時13分13秒を、2001年4月12日12時40分10秒に修正する。

[メニュー] を押す。 *2001年03月01日15時13分13秒*

[メニュー] を押す。日付、時刻の修正方法を印字する。

[ハイ] を押すと日付、時刻の修正方法を印字します。

印字を希望しないのであれば[メニュー] を押します。 日付を修正する。

[ハイ] を押して日付、時刻の修正モードに入ります。 日付を修正する。 2001年03月01日

反転印字部が修正出来ますので[>>] を3度押します。

[+1] を1回押します。

[>>>] を押し、04月を確認する。 日付を修正する。 2001年04月01日

[+1] を1回押す。

[>>>] を押し、[+1] を1回押す。 日付を修正する。 2001年04月12日

[<<<] を押し、内容を確認する。

違ってれば[>>>] + [+1] あるいは[<<<] + [+1] を使用して修正します。

合ってれば[メニュー] を押します。 よろしいですか。 2001年04月12日

再確認し、あっていれば[ハイ] を押します。 修正しました。

違ってれば[イイエ] で修正モードに戻ります。

時刻の修正は“時刻を修正する。”と印字を行ったときに[ハイ] で時刻の修正モードに入ります。

値の変更は[>>>]、[<<<]、[+1] で行います。

“修正しました。”が出て修正完了となります。

この印字が出ない状態で放置すると修正は完了せず、以前のままの状態となります。

スイッチの操作を30秒間行わないと修正モード(キーモード)を中止し、外部からの制御が可能になります。

修正が完了するまで、内臓時計は歩進しています。

2) 修正値の範囲について

各項目の[+1] による修正範囲は下記の通りで、分の上桁の場合5の次は0になります。

2 0 0 1 年 1 2 月 3 1 日 1 5 時 4 7 分 5 5 秒
0~9 0~1 0~3 0~2 0~5 0~5 0~9
0~9 0~9 0~9 0~9 0~9 0~9

3) 修正エラーについて

誤った値を入力した場合には再度修正モードになります。例えば、14月や32日や26時の入力は可能ですが、最終確認で不相当とみなして再入力を求められますので正しい値を入力して下さい。

3. 発券番号をリセットする (T - 1 0 0 0 F Z のみ)

発券番号をあらかじめ決められた値に戻します。

1) 具体的な操作

発券する番号を初期値に戻す。

[メニュー] 操作で “ 発券番号をリセットする。 ” を印字させる。

[ハイ] を押して再確認の印字を行う。

実行する場合は [ハイ] を押します。

修正モードに戻る場合は [イイエ] を押します。

“ 修正しました。 ” が出てリセット完了となります。

この印字が出ない状態で放置するとリセットは完了せず、以前のままとなります。

スイッチの操作を 3 0 秒間行わないと修正モード (キーモード) を中止し、外部からの制御が可能になります。

初期値とは通常、番号をゼロに戻し、発券番号を 1 から始めることを言います。

当プリンタでは初期値を任意の値に設定することも可能です。(取扱説明書制御コード DC3 F を参照して下さい。)

発券番号をリセットする。
番号のリセットを実行する。
修正しました。

4. 発券番号を修正する (T - 1 0 0 0 F Z のみ)

次に発券する番号を任意に決められます。

1) 具体的な操作

次に発券する番号を 1 2 3 4 に修正する。

[メニュー] 操作で “ 発券番号をを修正する。 ” を印字させる。

[ハイ] を押して現在の番号を確認する。

反転印字部が修正可能です。

[《], [》] を押すごとに反転印字部が移動します。

[+ 1] を押して 1 2 3 4 に修正します。

[メニュー] を押します。

再確認し、[ハイ] を押します。

修正モードに戻る場合は [イイエ] を押します。

“ 修正しました。 ” が出て修正完了となります。

この印字が出ない状態で放置すると修正は完了せず、以前のままとなります。

スイッチの操作を 3 0 秒間行わないと修正モード (キーモード) を中止し、外部からの制御が可能になります。

発券番号を修正する。
発券番号を修正する。 0000
発券番号を修正する。 1200
発券番号を修正する。 11234
よろしいですか。 1234
修正しました。

2) 修正値の範囲について

各桁の [+ 1] による修正範囲は 0 ~ 9 で 9 の次は 0 になります。

5. リセット時刻を修正する (T-1000FZのみ)

発券番号を初期値に戻す時刻を指定します。

1) 具体的な操作

午前8時に初期値に戻す。

- ①[メニュー] 操作で“リセット時刻を修正する。”を印字させる。 リセット時刻を修正する。
- ②[ハイ] を押して現在の時刻を確認する。 リセット時刻を修正する。 00時
- ③反転印字部が修正可能です。 リセット時刻を修正する。 00時
- ④[《》、[]] を押すごとに反転印字部が移動します。
- ⑤[+1] を押して 08 に修正します。
- ⑥[メニュー] を押します。 よろしいですか。 リセット時刻 08時
- ⑦再確認し、[ハイ] を押します。 修正しました。
- ⑧修正モードに戻る場合は [イイエ] を押します。
- ⑨ “修正しました。” が出て修正完了となります。
- ⑩ この印字が出ない状態で放置すると修正は完了せず、以前のままの状態となります。
- ⑪ スイッチの操作を30秒間行わないと修正モード(キーモード)を中止し、外部からの制御が可能になります。

2) 修正値の範囲について

- ①各桁の[+1]による修正範囲は 0 ~ 9 で 9 の次は 0 になります。
- ②設定範囲は 00時~25時までです。26時以上を設定すると修正モードに戻ります。
- ③24時に指定すると電源投入時に実行します。 よろしいですか。電源オンでリセット
- ④25時に指定すると手動リセットのみとなります。 よろしいですか。手動でリセットする
- ⑤指定時刻に停電中(プリンタ電源が切れている)である場合はリセット動作を実行しません。
リセットを実行するためには指定時刻に必ず電源が入っている必要があります。
- ⑥指定時刻は発券や各種設定を行わない時刻を指定して下さい。(例. 00時、05時)
また指定時刻に待機中であることが条件となります。
ここで言う待機中とは手動発券では発券スイッチを押すのを待っている状態、自動発券では発券した券を取り去るのを待っている状態をいいます。

6. 発券枚数を修正する (T-1000FZのみ)

同じ内容の券を複数枚発行する時に設定します。

1) 具体的な操作

2枚の発券に修正する。

- ①[メニュー] 操作で“発券枚数を修正する。”を印字させる。 発券枚数を修正する。
- ②[ハイ] を押して現在の枚数を確認する。 発券枚数を修正する。 発券枚数 11
- ③[+1] を押して 2 に修正します。
- ④[《》、[]] を押すと修正値を印字します。
- ⑤[メニュー] を押します。 よろしいですか。 発券枚数 2
- ⑥再確認し、[ハイ] を押します。 修正しました。
- ⑦修正モードに戻る場合は [イイエ] を押します。
- ⑧ “修正しました。” が出て修正完了となります。
- ⑨ この印字が出ない状態で放置すると修正は完了せず、以前のままの状態となります。
- ⑩ スイッチの操作を30秒間行わないと修正モード(キーモード)を中止し、外部からの制御が可能になります。

2) 修正値の範囲について

各桁の[+1]による修正範囲は 1 ~ 9 で 9 の次は 1 になります。

7. 最後のカット方法を選択する (T - 1 0 0 0 F Z のみ)

発券の最後に実行するカット方法を決めます。

1) 具体的な操作

フルカットに指定します。

[メニュー] 操作で “最後のカット方法を選択する。” を印字させる。最後のカット方法を選択する。

[ハイ] を押して現在のカット方法を確認する。最後のカット方法 フルカット

フルカットであれば [ハイ] を押します。修正しました。

パーシャルカットであれば [イイエ] を押します。

修正モードに戻る場合は [メニュー] を押します。

“修正しました。” が出て指定完了となります。

この印字が出ない状態で放置すると修正は完了せず、以前のままの状態となります。

スイッチの操作を 30 秒間行わないと修正モード (キーモード) を中止し、外部からの制御が可能になります。

2) 指定値の内容について

[イイエ] を押すごとにパーシャルカット、フルカットと変化します。

通常手動発券ではフルカット、自動発券ではパーシャルカットを指定します。

手動発券ではパーシャルカットを指定し、風で飛ばない様にする方法も出来ます。

8. 発券内容を選択する (T - 1 0 0 0 F Z のみ)

プリンタには 4 種類の発券データが登録できます。どの内容の券を出力するかを決めます。

1) 具体的な操作

登録してある内容の 3 番目を選択する。

[メニュー] 操作で発券内容指定を印字させる。発券内容を選択する。

[ハイ] を押して現在の選択値を確認する。発券内容を選択する。 3

[+1] を押して 3 を選択します。

[《 》]、[《 》] を押すと選択値を印字します。

[メニュー] を押します。よろしいですか、 3

再確認し、[ハイ] を押します。修正しました。

修正モードに戻る場合は [イイエ] を押します。

“修正しました。” が出て修正完了となります。

この印字が出ない状態で放置すると修正は完了せず、以前のままとなります。

スイッチの操作を 30 秒間行わないと修正モード (キーモード) を中止し、外部からの制御が可能になります。

2) 修正値の範囲について

各桁の [+1] による修正範囲は 1 ~ 4 で 4 の次は 1 になります。

9. 印字濃度を選択する (T - 1 0 0 0 F Z のみ)

使用する記録紙に合わせて印字濃度を選択します。

1) 具体的な操作

印字濃度を 2 に修正する。

[メニュー] 操作で “濃度選択を選択する。” を印字させる。

[ハイ] を押して現在の濃度を確認する。

[+1] を押して 2 を選択します。

[《 》]、[《 》] を押すごとに現在値を印字します。

[メニュー] を押します。

再確認し、[ハイ] を押します。

修正モードに戻る場合は [イイエ] を押します。

“修正しました。” が出て修正完了となります。

この印字が出ない状態で放置すると修正は完了せず、以前のままの状態となります。

スイッチの操作を 30 秒間行わないと修正モード (キーモード) を中止し、外部からの制御が可能になります。

印字濃度を選択する。

印字濃度を選択する。 2 を選択

印字濃度を選択する。 2 を選択

よろしいですか。 印字濃度 2 を選択

修正しました。

2) 修正値の範囲について

各桁の [+1] による修正範囲は 0 ~ 6 で 6 の次は 0 になります。

弊社標準の記録紙の場合は 2 として下さい。

0 が 1 番薄く、番号が大きいほど濃くなります。

印字ヘッドの寿命は番号が大きいほど短くなります。

10. T - 1 0 0 0 F Z 使用時の注意

1) 手動発券モードの場合

設定後、紙送りスイッチでロール紙をカットします。

ケースカバーを閉じると 30 秒後に通常の使用状態となります。

2) 自動発券モードの場合

券を取らない状態でケースカバーを開けると、自動的に 1 枚発券されてしまいます。

発券された券はセンサーを通過しないため発券エラーとなります。

この状態で設定値を変更することになります。

設定後紙送りスイッチでロール紙をカットし、30 秒間待ちます。

印字スイッチを押し、ケースカバーを閉じます。

再印字された券を取り去ると、通常の使用状態となります。

3) 発券は、前回発券した券が発券口に無いことが条件となります。

必ず発券口に券が無い事を確認して発券信号 (発券スイッチ、外部発券信号) を入力して下さい。

連続発券の場合は、前回の発券終了後 約 0.5 秒の時間を開けて発券信号 (発券スイッチ、外部発券信号) を入力して下さい。

T - 1000 F Z の発券エラーについて

1. 発券エラーの発生

発券した用紙が発券確認センサを通過しない場合は発券エラーとなります。

2. エラー時の状態

オプションの表示器を取り付けている場合は、--- を点滅表示します。

表示器が無い場合はそのままの状態を保ち次の発券は出来ません。

3. 解除方法

1) ケースカバーを開けます。

2) 発券された用紙を取り除きます。

この時用紙がカットされていなければ紙送りスイッチを押してカットします。

3) 印字スイッチを押し、カバーを閉じます。

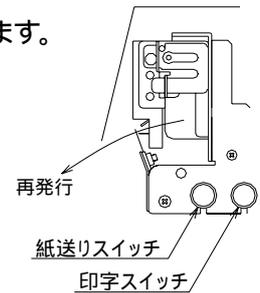
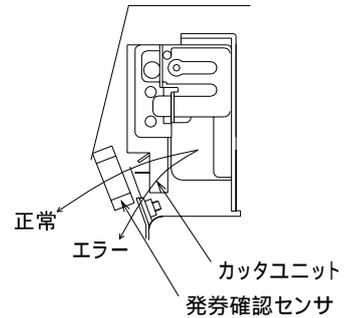
(この操作でエラー解除となります。)

4) スイッチを押してから約5秒で再発行の印字を行います。

再発行が終了すると待機状態となります。

4. 注意

登録されていない発券内容を選択した場合でも発券エラーとなります。



印字中のペーパーエンドについて

印字中にペーパーエンドになると発券を停止します。

ロール紙（記録紙）のセット方法 を参考にしながら下記要領で記録紙をセットして下さい。

- 1．ケースカバーを開けます。
- 2．紙送りスイッチを操作して印字部に残っている記録紙を取り除きます。
- 3．ヘッドアップレバーを上げ、ロール紙をセットします。
- 4．紙送りスイッチを押して、スムーズに送るか確認します。
- 5．印字内容が残っていると自動的に印字を開始します。
- 6．印字終了後、印字された券が使用できるのであればそのままカバーを閉じます。
使用できないのであれば印字スイッチを押し、カバーを閉じて下さい。
- 7．印字スイッチを押さなかった場合、約15秒後に待機状態となります。
印字スイッチを押した場合、約5秒後に再発行を行い待機状態となります。

表示器について

1. オプションの表示器を追加した場合の表示動作は次のようになります。

内 容	表 示	備 考	エラー時の解除方法
電源投入時 (F J)	0	F Z は発券番号を表示	正常表示
発券番号表示	1234	9 0~9 99 10~99 999 100~999 9999 1000~9999	正常表示
発券停止	----	SELECT IN 入力時	
ペーパーエンド時	P_E_	点滅	記録紙をセットする
ヘッドアップ時	H_UP	点滅	カバーを元の位置へ戻す
日付時刻修正時	12	設定桁のみ点滅	正常表示
発券番号指定	4 123	設定桁のみ点滅	正常表示
リセット時間指定	r - 12	設定桁のみ点滅	正常表示
発券枚数指定 発券選択 印字濃度指定	[4]	点滅	正常表示
カット方法指定	PART FULL	パースシャルカット フルカット	正常表示 正常表示
発券エラー	----	点滅	発券エラーの項目参照
サーミスタ断線	CALL	点滅	印字ヘッドの故障
カタエラー	HELP	点滅	紙づまり時の対応参照
フレーミングエラー	Er-F	点滅	通信エラー 取扱説明書参照
オーバーランエラー	Er-O	点滅	通信エラー 取扱説明書参照
パリティエラー	Er-P	点滅	通信エラー 取扱説明書参照

2. 項目 のサーミスタ断線について

印字ヘッドにはヘッド温度を監視しているサーミスタ (感温素子) が内蔵されています。

このサーミスタが故障すると印字不良が発生しますので、故障と判断した場合はプリンタを停止させます。

この場合には発券動作、紙送りスイッチ類の操作も出来ません。

3. 項目 のカタエラーについて

カタエラーが発生すると項目 のサーミスタエラー同様プリンタは停止します。

ただし、F Z の場合は次の動作が可能です。

- 1) 紙送りスイッチによる紙送り動作
- 2) 印字スイッチによる再発行

- 4 . の通信エラーについて
パソコン等をRS - 232Cで接続している場合に発生することがあるエラーです。
詳細は取扱説明書を参照して下さい。
- 5 . F Zの表示についての注意
LED表示による表示は通常発券した番号を表示するようになっています。
ただし、次の場合には次に発券する番号を表示します。
- 1) 発券番号のリセットによる0の表示後、発券せずに電源を再投入した場合は発券開始番号
（通常1）を表示します。
 - 2) 操作スイッチによる発券番号を修正した場合。
- 6 . F Jの表示についての注意
F Jでは項目 ~ については表示されません。

紙づまり時の対応

1. T - 1000FJの場合

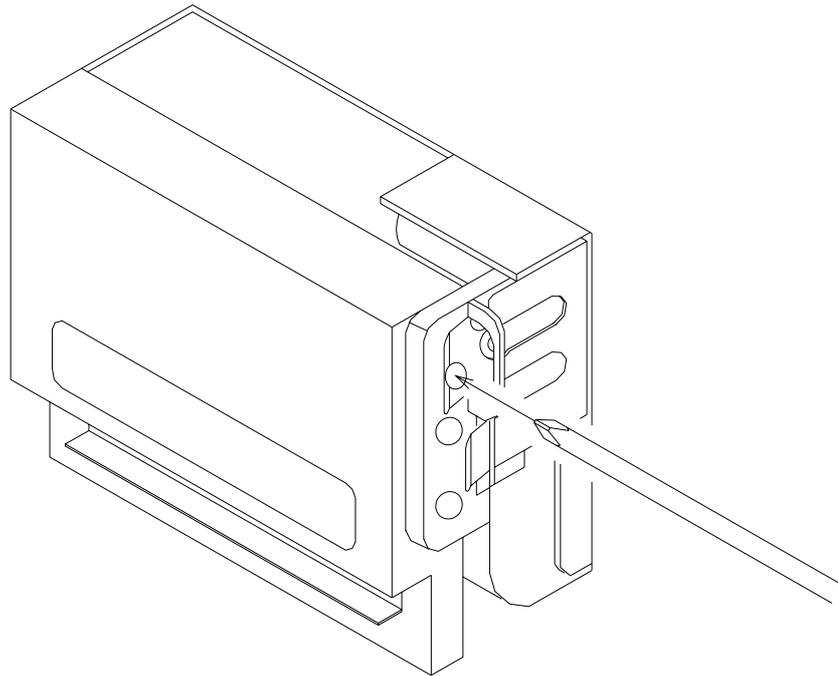
1) 印字メカニズムでの紙づまり

電源を切ってから、紙づまりの原因を除去して、電源を再投入して下さい。

2) オートカッタでの紙づまり

電源を切ってから、紙づまりの原因を除去して、電源を再投入して下さい。

カッタユニットの前後面の歯車を回転させる事により、カッタ刃を移動させる事が出来ます。



2. T - 1000FZの場合

1) 電源を切らずにカバーを開け、紙づまりの原因を除去します。

2) 側面の印字スイッチを押し、カバーを閉じると約5秒後に再発行を開始します。

7. 注意

たびたびエラーが発生する場合はカッタの故障か、寿命が考えられます。

カッタの寿命は30万カットとなっています。

カッタ交換方法

1. 交換する前の注意点

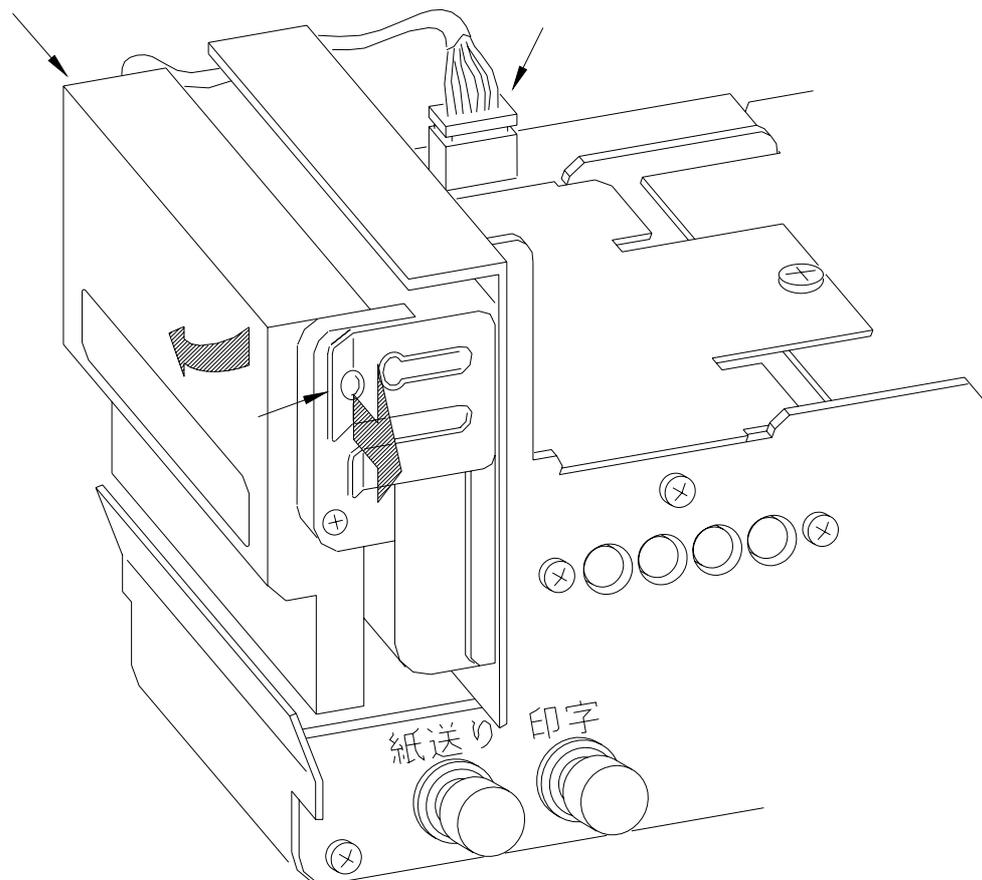
- 1) 必ず電源を切って行って下さい。

2. 交換手順

- 1) カッタ用コネクタ を外します。
- 2) を外側へ開きます。
- 3) オートカッタ を手前に引いて取り外します。
- 4) の位置の穴に新しいカッタの穴起部をはめ、反対側を の位置へはめ込みます。
- 5) カッタ用コネクタ を取り付けます。

3. 交換後の操作

- 1) 電源を入れます。
- 2) 記録紙（ロール紙）をセットします。
- 3) 紙送りスイッチを操作してオートカッタを動作させ、カッタ動作に問題が無いか確認します。
カッタ動作に不具合がある場合はコネクタ、オートカッタ の取り付けを確認して下さい。



メンテナンスの方法

1. サーマルヘッドのクリーニング

用紙カス、異物等によりヘッドやプラテンの寿命を損なう場合があります。定期的に清掃を行って下さい。

2. 長期間使用しない場合

長期保存（常温にて半年以上）する場合は、記録紙をはさみ、ヘッドアップ状態にして下さい。又、短期保存の場合でも記録紙は、はさんだ状態にして下さい。

ゴムローラとピンチローラ及びヘッドが直接接触した状態が長期に続いた場合にはゴムローラが部分的に変形し、印字ムラが発生する危険性があります。

結露の可能性のある環境では、電食防止のため、通電状態で長時間放置しないで下さい。

又、ロール紙をセットしたまま放置しますと、ロール紙の変色、退色、プラテンとの貼り付きが発生する場合があります。このような時は、新しいロール紙に交換して下さい。

消耗品の購入について

1. ロール紙

型式	外径	長さ	紙厚	購入単位
NP - 604	100	118m	64μ	10巻

2. オートカッタ

型式 FTP - 622CT004



ナダ電子株式会社

本 社	神戸市東灘区本山南町1丁目4番43号 TEL(078)413-1111 FAX(078)412-2222	〒658-0015
東 京(営)	東京都港区芝4丁目5-11 芝プラザビル TEL(03)3455-4230 FAX(03)3455-4249	〒108-0014
名古屋(営)	名古屋市名東区上社1-1304 北村第三ビル TEL(052)776-1921 FAX(052)775-6080	〒465-0025
福 岡(営)	福岡市博多区博多駅南1丁目7-16 オーリン7号ビル TEL(092)471-8305 FAX(092)471-8355	〒812-0016